

奈良の丘だより

横浜市立奈良の丘小学校

学校教育目標 2月号

笑顔いっぱい チャレンジいっぱい 奈良の丘



- 自ら考え、進んで行動する子を育てます
- 互いに認め合い、高め合う子を育てます
- たくましく、共に生きる子を育てます

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/naranooka/>

立春 (にじゅうしせつき 二十四節気)

副校長 和内 昭子

立春とは、春の始まりといわれています。けれども、奈良の丘は1月下旬氷点下6度でした。2月は、立春というのにまだまだ寒さの厳しい季節です。このように季節と暦には「不思議だな。」と感じることがあります。その疑問を解決すべく「季節の言葉」(日本気象協会編)を参照し調べてみました。

現在、わたしたちが生活のよりどころにしている暦は「太陽暦(グレゴリオ暦)」です。

1年は365日4年に1度の閏年は366日です。そして、1年は12か月(1月～12月)の区切りで、気象学的な区分としては、春は3月4月5月、夏は6月7月8月、秋は9月10月11月、冬は12月1月2月として季節がめぐってきます。

太陽暦が明治6年(1873年)に採用されるまでの長い間、日本では旧暦と二十四節気を利用した生活を行ってきました。古くから続く習慣や行事などは旧暦をもとに行われているもの(七夕など)も残っています。旧暦は太陽太陰暦です。月の満ち欠けを利用して「新月の日」を毎月1日とするのが太陰暦です。そのため、太陰暦の1年は354日です。太陽暦の1年は365日なので、太陰暦は1年が11日少ないのです。このため、旧暦では二十四節気を利用して約3年に一度閏月(おまけの1か月)を入れて太陽暦とのズレを修正していました。閏月を入れても旧暦は太陽暦(気節の暦)とはズレがあるので、当時の人々は日付については旧暦を見て、季節に関わることは二十四節気を利用して生活をしていました。二十四節気は太陽暦の1年を二十四等分したもので、立春(2月上旬)から始まり、大寒(1月下旬)で終わります。この季節のめぐりの順番が“春夏秋冬”なのです。

このように日本の行事や普段使っている言葉など、現代のわたしたちの季節感に旧暦と二十四節気が影響していることが分かりました。立春は二十四節気の一つ。

「立春、雨水、啓蟄、春分、清明、穀雨、立夏・・・」と暦の中にでてきます。日本の季節の素晴らしさでもあり、先人たちの知恵でもあるのですね。

みなさんも不思議だなと思うことを調べてみませんか。



子ども安全教室

1月22日の授業参観において、5年生では青葉警察署生活安全課の方々をお迎えして、「ケータイ・ネットの安全な使い方」をテーマに子ども安全教室を開催いたしました。

子どもたちは、保護者の皆様と一緒に安全のためのルールやマナーをしっかりと学ぶことができました。